キャラクター名
神城カレン

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ソラリス	ワークス	レネゲイドビーイングB	カヴァー	UGNエージェント
オプショナル		年齢	14(外見)	性別	女
覚醒	忘却	衝動	憎悪	初期侵食率	40 %
出自	冬眠	経験	記憶喪失	邂逅	家族

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	0	1	0			1
精神	2	0	0			2
社会	6	0	0			6

HP	24
行動値	4
(非装備時)	4
戦闘移動	9
全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避			知覚	2		意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
幸せな一時の火		5r	-1	＋5		60%以下②④ 侵＋4 HP＋[3d10＋2]
幻を見せる仄かな灯火		6r	-1	＋5		60%以上②④ 侵＋4
死ぬことでしか救われないなら		15r	-1	＋5		80%以上②③④ 侵＋9
奇跡を起こす一つの光 Den lille Pige med Svovlstikkerne		19r	-1	＋5		100%以上 HP＋[4d10＋2]

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
カレン・アディントン	P 遺志	N 嫉妬		
大門アギト	P 有為	N 脅威		
神城早月	P 幸福感	N 恐怖		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1		常時	至近	自身	自動	RB	
効果：衝動判定D＋LV、侵蝕値＋5								
オリジン：レジェンド	1	侵＋2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果：【精神】判定達成値を＋[LV*2]								
戦乙女の導き	5	侵＋2	メジャー	至近	単体	自動		
効果：次のメジャーのD＋LV、攻撃力＋5								
狂戦士	4	侵＋5	メジャー	視界	単体	自動	80↑	
効果：次のメジャーC値-1[6]、D＋[LV*2]								
癒しの水	3	侵＋2	メジャー	視界	単体	自動		
効果：対象のHPを(LV)D＋【精神】点回復								
ポイズンフォッグ	4	侵＋2	メジャー	至近	範囲	自動		
効果：射:至近,範囲選択にする。1シLV回								
帰還の声	1	侵＋6	オート	視界	自身	自動	ピュア	
効果：使用回数制限＋1、1シナリオ1回								
声なき声	1		メジャー	視界	自身	自動		
効果：視界内の相手にテレパシーを送る								
竹馬の友	1		メジャー	視界	単体	自動		
効果：自分を信頼できる友だと勘違いさせる								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

少女は元々作品の中にある一人の登場人物に過ぎなかった。少女の作品は今では古き良き作品として図書館でホコリを被っていたのだ。
この少女はホコリの中でぐっすり寝ていたが、唐突に変化が訪れる。自身を呼び起こし、自分の身体を支配しろと命じてきた女性がいた。
それがカレン・アディントンであった。彼女がなぜ自身を呼び起こしたのか、自分の身体をなぜ差し出したのか、全ては今でも謎のままである。
少女は再び眠りの世界につくことを恐れ、命令に従ってカレン・アディントンの身体に乗り移る。これが少女の支配型レネゲイドビーイングの誕生だ。

少女はカレン・アディントンの身体に乗り移ったはいいが、そこから先の記憶は数年黒く塗りつぶされている。
記憶の中にあるは津島タツミと呼ばれる男の姿だけで、津島タツミがしきりにカレンと少女に対して話しかけていたものだけだ。
実際はカレン・アディントンの元恋人であり、神城グループの反UGN側の一人、そして粘着質なストーカーに成り下がった男だった。
しかし津島タツミのせいでカレンがこうなったわけではないと理解している少女は彼に対しては何とも思っていない。
どうやら他にも失っている記憶はあると認識しているが、それが何かはわからない。

そんな少女だが、最も古いカレンとしての記憶は神城早月と初めて会ったときのことだ。
津島タツミの解雇と共に神城グループに見つかった少女は奇跡的にも神城早月と邂逅を果たす。二人はお互いに運命かのように惹かれあっていた。
神城早月はその頃まだ小学生であり、幼いながらに発した「貴方は今日から、私のいとこ」という言葉に少女は笑顔でうなずいた。
神城家は少女の受け入れに最初は反対していたものの、早月の強い願望により折れるほかなかったようだ。

そうして少女は名を神城カレンとして神城早月のいとことして暮らしてきた。
周りには隠し子や忌み子としてカレンを非難したが、早月の甲斐もあり現在も神城グループの早月の味方として動いている。
イリーガルとして大門アギトと接点を持つ。オーヴァードとしてはまだまだ未熟な彼の成長を見届けたいと思っているようだ。

少女は死ぬことでしか救われなかった。
少女を作り上げた作者が出来なかった、生きることが救いになる世界を少女は夢見ている。